

設定方法

2008-06-09 イメージ・キャンセル機能のON/OFF追加

起動

Setting画面に入るにはMENUの中にある”Setting”をクリックします。
この画面ではGigaStの各種設定を行えます。

画面構成

全体のレベルの補正 (dB)で主にLog素子のDCオフセット補正用です。 画面サイズ X,Yピクセル単位 入力不可

自動選択されたシリアル・ポート

↑↓キーでCenterを変更した時の増減量 (MHz)です。

レベル (Y軸)の表示単位を指定できます。6文字以内
例 dBm、dBu

単位変換のオフセット値を指定します。6文字以内

レベル軸のLog変化量 (dB)/divの選択

180KHzにレベルを合わせる為の補正值 (dB)

NOISE-SGのENR値を指定します。(0.1dB単位) 6文字以内

LOG表示のAMP誤差を入力します。(0.1dB単位) 6文字以内

イメージ・キャンセル機能のON/OFF

波形の平均値表示を行いません。ゆらぎの大きい信号を平均化して安定化します。特にNF測定に有効です。

この設定画面を閉じる

設定値を保存する。

BIAS-ADJ
Common dB: 6
Band: 0-1
MHz: 10, 100, 200, 300, 400, 500, 600, 700, 800, 900, 1000
dB: 4, 3, 1, 0, -1, -2, -2, -3, -3, -3

Display X: 590, Y: 556

Step MHz: 10

COM: COM8

RBW-ADJ
30KHz: 0, 15KHz: 2

dB Unit: dBm, Value dB: 0, Div dB: 10

NF: ENR*10dB: 142, Amp*10dB: -4

Offset Freq. MHz: 1000, Pol: Off

Graph Mode: Line, Plot: Line, Hold: Hold, Back: Back

Graphの描画方式の選択
Line.....直線で塗りつぶして表示
Dot.....点と点を結んで包絡線表示

グラフの色の選択
Plot.....描画点の色
Line.....目盛りの色
Hold.....Hold機能の色
Back.....背景色

スペアナ・モードの周波数特性を補正出来ます。

周波数補正值を入力する欄です。左の数字は補正すべき周波数をMHzで表示しています。BANDを変更すると自動でこの部分の周波数と補正值が変更されます。

Offset表示する周波数 (MHz)と極性 (+/-)を設定

周波数補正

- ・スペアナ入力に測定器SGを繋いで調整します。
- ・**測定器SGが準備できない場合はメール添付した個別補正データのまま使って この作業をスキップしてください。**
- ・補正を正確に行うためには0---12000MHzの測定器SGが必要です。出力-10dBm
- ・最初にBAND 0-1 に設定します。そして400MHzの欄をクリックしてリターン・キーを押します。
- ・測定器SG=500MHzにして そのレベルが画面-10dBm近辺となるようにCommon-BIASで調整します。
- ・この後各BAND毎の補正を行います。
- ・BAND 0-1では まず最初の補正点”0”には特別にSG=10MHzに設定して調整します。
- ・補正は波形のピークが-10dBmとなるように補正值を入力します。
↑↓キーで1dB単位での増減が可能です。決定はリターン・キーを押します。
- ・この作業を指定周波数毎にSG周波数を変えながら全点補正します。
- ・最後にSAVEボタンで保存してください。

RBW-ADJ

- ・TG出力とスペアナ入力を直結して調整します。
- ・SGの設定を500MHzとします。
- ・スペアナの設定をセンター=500MHz スパン=10MHzにします。
- ・RBW=180KHzにして500MHzの波高値を記録します。
- ・RBW=30/15KHzにした時のレベルが180KHzと同じとなるように調整します。
↑↓キーで1dB単位での増減が可能です。決定はリターン・キーを押します。
- ・最後にSAVEボタンで保存してください。

画面サイズ

- ・画面サイズの変更はWindows方式で行ないます。
- ・Win画面の右下角へマウスカーソルを移動させるとカーソルの形が⇄になる。
- ・そこでクリックして移動させると拡大/縮小が出来ます。
- ・最後にSAVEボタンで保存してください。

SAVE

- ・SAVEすると最初に保存ファイル選択画面になります。
- ・ここで”gigast”を選択すると次回起動時には現在の状態に設定されます。
- ・新規のファイル名を指定する事も可能です。

NF Amp

- ・RF-ATT 6dB を用意します。
- ・測定点のENR値を入力します。 例 14.5---->0.1dB単位なので 145 と入力
- ・NF-SGを試料に入力して平均値表示をON状態にしてNF値が安定してから記録します。
- ・平均値表示をOFFにします。リターンキーを押せばOFFに出来ます。
- ・NF-SGにRF-ATTを挿入して再度平均値表示ONでNF値が安定してから読み取ります。
- ・RF-ATTの有/無の差が6dBとなるようにNF Amp に0.1dB単位で入力します。
例 差が6.5dBの場合は -0.5dB----> -5と入力する。